

北海道新幹線開業戦略推進会議
平成27年度第1回交通戦略部会 議事概要

■日 時 平成27年5月21日（木）13時30分～14時55分

■場 所 プレスト1・7 2階 C・D会議室

■議事概要

1 道予算事業の取組状況について

（事務局）

～資料1にもとづき説明～

※ 質疑なし

2 構成機関における取組状況について

①JR北海道

～資料2-1にもとづき説明～

配付資料「北海道新幹線新函館北斗開業に向けた取組」のうち、二次交通関係部分について説明。（P3～5）

【質疑応答】

（七飯町）

- 混雑時の対応として、特急列車の活用も含めて対応したいと話があったが、スーパー北斗は乗車に特急料金が必要。緊急時は普通運賃で特急列車に乗車できるようになるのか？
- 函館～大沼公園間は、短い距離ではあるが、多くの外国人が特急列車を利用している。新幹線開業後の二次交通として考えたときに、函館駅と大沼公園までのエリアを特別なエリアとして、特急料金がかからないといったことを検討できるのかどうか。考え方を伺いたい。

（JR北海道）

- 現在も、外国人を含めた多数のお客様が函館～大沼公園間をご利用いただいている。料金については、本日、説明できる状況にはないが、今後、検討を進めていく。

（新函館開業対策推進機構）※以下「推進機構」

- 推進機構としても、3年程前からJR北海道に対し、特急料金の不要特例の検討を要望しているところ。先例として、新青森～青森間では、特急列車であっても自由席であれば普通運賃で利用できるように、新青森開業時に制度が変更されている。（新青森～青森間とは）距離が違うので、JR北海道がその先例を踏襲できるのかは分からないが、函館支社のご担当と話をした際、新幹線から在来線に乗り換える際に、改札で混乱が起こることは会社にとってもマイナスであり、できるだけスムーズな乗換えができるようにしたいという話は伺っているところ。利用者利便性の向上のため、引き続き、ギリギリ

までご検討いただきたい。

(JR北海道)

- 推進機構からの要望は承知している。具体的な検討はこれからであるが、函館へのアクセスとしては、はこだてライナーの利便性が高いと考えているので、まずは、はこだてライナーをしっかりとご利用いただけるようにと考えている。

(座長)

- 新幹線が到着したときには、はこだてライナーが待っているという状況をイメージしているが、よろしいか？

(JR北海道)

- ダイヤについては、これからの話であるが、イメージとしては新幹線が到着したときに、はこだてライナーが待ち構えていて、乗換えていただいて函館方面に移動していただけるようにイメージして進めているところ。

②函館バス

～資料2-2にもとづき説明～

【質疑応答】

(七飯町)

- 路線バスについては、駅利用者のためのということもあるが、JR北海道関係者等の職場への足という意味もあり、P4にあるとおり、新函館北斗駅と函館市内を結ぶバスについてはJR車両基地にも停車するとのことで、通勤の足にも配慮してもらえたと考えている。

(推進機構)

- 函館バスとは、早い時期から意見交換をさせていただき、ようやく本日、皆さんに公表できるところまできた。3～4月に、二次交通の整備の遅れを指摘する報道があったが、関係者との協議の都合で公表できない事情もあり、会社の方々も気をもんだことと推察。大変お疲れ様でした。
- 確認だが、新函館北斗駅と函館駅間の桔梗駅や五稜郭駅での接続については、既存路線を中心に検討されるということによろしいか。

(函館バス)

- 大凡のルートは決めているが、関係自治体等と相談して決定していきたい。

(推進機構)

- 特に五稜郭駅では、道南いさりび鉄道とバスの接続が重要。現在、JRで函館まで行ってからバスに乗り換えているケースが多いが、新幹線開業後は五稜郭-函館間は別に初乗運賃を要することから、経済的な負担を考えると、五稜郭駅におけるバスとの結節機能の強化が必要となる。

③北海道開発局

～資料2-3にもとづき説明～

【質疑応答】

(推進機構)

- 道の駅の取組の「Wi-Fi環境整備」について、先般、釧路管内に行った際に、管内の道の駅に「くしろエリアWi-Fi」とステッカーが貼られており、フリーWi-Fiの環境が整備されていたが、開発局主導で実施されているのか。函館でもWi-Fi環境の整備に取り組んでおり、事業スキームを勉強したいので、情報提供いただきたい。

(開発局)

- 確認させていただき、後日、情報提供する。

④推進機構

～口頭で説明～

- ・ 推進機構では、二次交通充実化部会を設置しており、その取組状況を報告する。
- ・ 検討事項が大きく3つあり、一つ目が、新駅・現駅間の鉄道アクセス等新幹線運行サービスの充実化。こちらについては、要望項目を取りまとめ、年に1回程度、JR北海道に要望書を提出している。
- ・ 二つ目が、新駅と市内拠点をつなぐバス路線網を観光路線バス、交通拠点のあり方についての協議。こちらについては、地元バス事業者と相談・調整した結果、本日、函館バスから発表があったように、整備についてご協力をいただいているところ。
- ・ 三つ目が、二次交通の分かりやすさ、利用しやすさの向上。今週月曜日の定時総会で、今年度の事業計画案が承認されたところであるが、今年度、二次交通の分かりやすさを創出するというテーマに基づいて公共交通に観光案内機能を一部付加したマップの制作・頒布を、新幹線開業に合わせて予定している。

新駅から函館エリア、また、途中駅から函館エリアへの、主に公共交通の利便性向上と使いやすさを創出するために、分かりやすいマップを制作し、関係先に頒布することを想定。

また、函館市内エリアを運行している観光路線バスの分かりやすさ、利用しやすさの創出として、函館市と連携し、バス停の案内表示の強化・充実化のための事業者に対する補助制度を運用して整備を進めたいと考えている。さらに、観光路線バスと一瞥できるようなラッピングデザインを事業者が進めるための補助制度の運用も予定。

なお、マップについては、道においても、制作するとのことであるので、コンセプトを一致させて、分担して進めていきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

※ 質疑なし

⑤その他

～事務局より、資料2-4に基づき説明～

※ 質疑なし

3 開業当初の特別体制について

①北陸新幹線開業時の視察に関する報告

(事務局)

～資料3にもとづき説明～

【質疑応答等】

(運輸局)

- 北海道運輸局も、前日から金沢に入り、開業日の状況を視察してきたので、発言させていただく。
- 金沢、上越妙高、富山を2人で分担して視察。様子は事務局の写真にあるとおりだが、印象として、関係者は大変一生懸命に取り組んでいた。
- 金沢では午前6時始発であったが、前日夕方にみどりの窓口で聞いたところでは、午前5時に駅が開くと思うが、変更の通知が来ていないので詳細は分からないとのこと。皆が手一杯で大変な状況であった。
- 当日の朝5時に金沢駅に行ったところ、大きな行列が二つできていた。一つは入場券を買う行列。もう一つが、入場券を持った人と乗車券を持った人の改札への行列。中に入ってみると入場券の人の方が圧倒的に多かったことから、乗車券を持った方々が乗車できないことがないようにどのように捌くかが、函館においても大きな課題と感じた。
- 金沢市では、従来からバス交通に精力的に取り組んでおり、駅も新しくして大変力を入れている。案内板を見ている人がいれば、案内スタッフが声をかけて、行き先への案内をするなど、対応はしっかりとされていた。あえて言えば、改札を出るときの案内表示が、西への東へも「バス・タクシー」となっており、どちらへ行けば、どこ行きのバスがあるのかが、分からない状態。案内表示は多数あったが、最初のきっかけのところが表示が大切と感じた。
- 上越妙高駅の状況も視察したが、開業当日は、イベントが多数開催されており、発車の案内が聞こえないほどであった。その後の話として、駅前の交通アクセスや案内が、当初の想定どおりでないこともあると聞いている。ゴールデンウィークを経過したが、お客様が思うように張り付いているところとそうでないところがあるとのこと。
開業当日も、新幹線が発車した後、人が少なくなるという状況も見られたとのこと。
- こうした北陸の状況については、今後の取組に活かして、北海道新幹線の新駅が良い駅になればと考えている。

(推進機構)

- 地域事情が大きくことなるが、県庁所在地の拠点駅なので、金沢市等は予算のかけ方が違うという印象。大型電光掲示案内板は、2500万円の予算を措置したと聞いている。函館市の期成会でも、そこまでの規模ではないが、現函館駅に案内板を設置するよう関係方面に働きかけたいと考えている。
- 金沢市では、このほかにも人を配置したコンシェルジュ機能もあるが、開業後2週間後に、地元商工会議所にヒアリングを行ったところ、ここまでやっても交通の案内が不十分であるという声が多いとのこと。いらっしゃるお客様の数に対応が追いついておらず、クレームに繋がっているということ。
- この視察結果を踏まえて、新函館北斗駅等では、今後どのように取り組む考えなのか。平時の案内表示、お客様の誘導などの対策について、誰が主導して、いつまでに何をするのか、考えを伺う。報告して終わりなのか、この部会が主導してシミュレーション等をするのか。

(座長)

- 交通案内表示に関しては、例えば新函館北斗駅については、駅内はJR北海道が、附帯施設内は北斗市が整備を進めているものと承知。基本的に、案内表示板の色、内容、

形式は同一方式で整備する考えと伺っている。さらに、観光案内所においては、観光だけではなく、交通に関する案内もしていただくよう話をしており、そこで行う交通案内に対して、道としてどういうサポートができるか、今後考えていく必要がある。

(推進機構)

- 統一的なデザイン云々は二の次。どの場面でどういう案内をするのかという方針が、どの時点で提示されるのか。それに対して、我々が関与する余地があるのかどうか。今の説明に関して言えば、観光案内所で交通の案内をするのであれば、顧客目線で言えば「観光交通案内所」の方が良いといったことを傍観者としてだけではなく、主体的に提案したり、議論したりという場がどちらになるのか。

(座長)

- 実際の看板は既に発注されており、今から大きな変更を加えることは難しいと考える。どういう形式で考えているのかについては、どこかの段階で、この部会の中で、JR北海道や北斗市等から説明してもらうことを考えている。

(推進機構)

- 改札を出たところから、どういう目線で何を追って、どう目的地にたどり着くかという見方をした時に、いろんな課題が見えてくると思う。
- 表示・誘導のあり方について、一つずつ問題点をつぶしていく場がどこなのかが見え、非常に心配している。整備主体が異なることは理解しているが、顧客目線での意見を誰に言えば良いのかが分からない状況。道庁がその役割を担うと理解してよろしいか。

(座長)

- 分かりやすい表示を心がけることは当然のことであり、整備主体も同じ方向を向いているので、それをどこかで説明してもらい、それに対して意見を言える場を設けていくことが必要。いずれかの時点で、この部会で、JR北海道等から説明をお願いしたい。

(道経連)

- 地元の方々から今のような話しが出ているので、是非、現場の声を聞いて進めていただきたい。一昨年の12月に、石川県等に話を聞きに行ったが、その段階で観光案内所の機能等に関する方針は決められていて、この度の開業の際に、それが実行されていたことを目の当たりにしてきた。
- 遅れている部分もあるが、地元の声をしっかりと吸い上げて取り組んでいただきたい。

②開業当初の特別体制について

(事務局)

～資料4にもとづき説明～

※ 質疑なし

(座長)

- それでは、資料で提案した体制で、今後、検討を進めていくので、関係機関におかれては、よろしく願います。

以上